

〔曲名〕 Raggio di Luna

月の光 幻想曲

〔曲種〕

幻想曲

〔作曲者〕 D.Vastano

D.ヴァスターノ

〔編曲者〕

19世紀から20世紀の初期にかけてイタリアからアメリカに大量の移民が行われたがそうした中に新天地を求めたマンドリニストも含まれている。

ステラリオ・カムブリア、ジュゼッペ・ペッティネ、ニコラ・カラーチェがそうであるが、本作者もそうした中の一人に思われる。

イタリアは国土の割に人口多く活躍の舞台を他国に求めた人が可成り多い。

隣のフランスにもデ・クリストファロ、メツァカーポ、マチョッキ、モンティ、等が移住し、ラニエーリはベルギーにラヴィトラノーはアルジェリアにサルコリは日本に来て了った。

1905年日露戦争の講和条約が時のアメリカ合衆国大統領ルーズベルトの斡旋（あっせん）でポーツマスで結ばれたことは人のよく知るところであるが、

本曲もそれに関連があり、当時世界の耳目を聳動（しょうどう＝驚かす）せしめた日露の戦が漸く（ようやく）収まり暗雲が去り月の光が蘇ったことを喜んで作曲されたもので、

ルーズベルト大統領の娘に献曲されている。

ボローニアで刊行されていた斯楽誌ヴィタ・マンドリニスティカ主催の作曲コンクールに応募されたものであるが期日×切後に到着、1905年9月号の同誌上に発表された。

当時イタリアではマンドリン音楽の興隆期でこの戦で一躍脚光を浴びた日本に題材した曲が多く「日本海軍」「ジェネラル東郷」「日本風行進曲」等続々現れ、

中には「芸者」等とゆうもの等いづれも似つかぬ日本が描かれてある中に本曲は純粹の動機であるだけに又日本を描こうとしたものでないだけに好感が持てる。

作者が当時ニューヨークに在住していたことは記されているが経歴も他の作品も解っていない。

1970年11月30日発行

イタリアマンドリン百曲選第9集より